

SHIMO  
KITA  
ZAWA

# Link Park

まちをつなげる・ひとをつなげる  
下北沢リンク・パーク

東京都世田谷区下北沢エリア

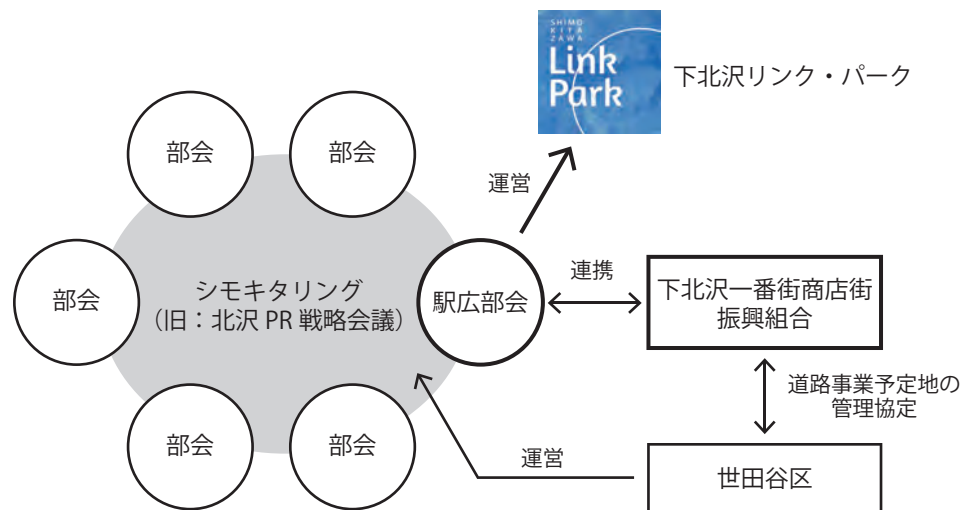
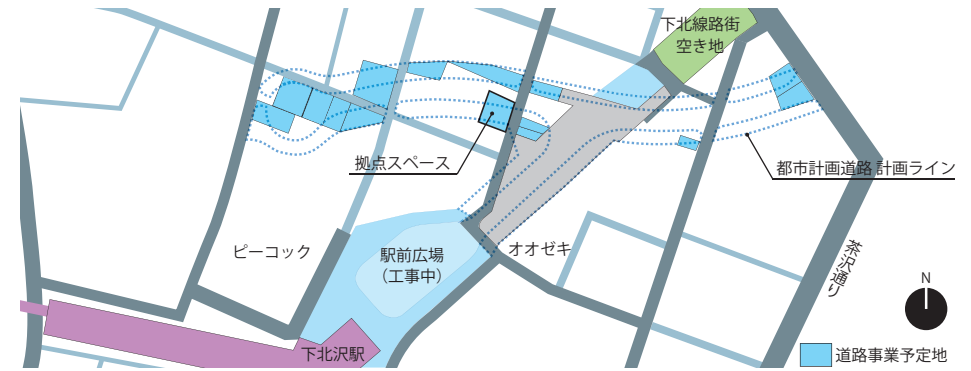


## (1) 活動地域の概況、特徴、まちづくりの課題など

- 下北沢周辺（北沢地域）では、小田急線の連続立体交差事業や都市計画道路事業の是非をめぐり長年裁判が行われ、地域を二分する議論が行われていた。下北沢らしい、迷路のような細街路を残すことを求める声がある一方で、災害に強い街づくりという観点から高幅員道路や駅前広場を求める声もあるなど、まちの文化と機能が相反する意見があった。事業に反対する活動は多くの著名人も参加する社会運動にもなり、区が主催する説明会等では怒号が飛び交う期間が長く続いていた。
- 連続立体交差事業は小田急線の地下化が決定され、上部利用施設が世田谷区と小田急電鉄により整備されることになったものの、誰もが参加できる場で、これからの下北沢周辺の将来を形づくる場がないまま事業が進む状況となっていた。

## (2) まちづくり活動の背景、契機、経緯、ヒストリーなど

- 世田谷区は、誰もが参加できる場として「北沢 PR 戦略会議（現在のシモキタリング）」を2016年に立ち上げ、参加者主体の部会ごとに、それぞれの活動をスタートさせた。
- その中の部会の1つである「駅広部会」は、将来整備される下北沢駅駅前広場をテーマとした部会であり、駅前広場のあり方について意見交換や提案を行っていた。
- それらの活動の一環として、提案だけでなく実際に目に見える社会実験的な活動を通じて、駅前広場でのアクティビティや活用の可能性について探っていく必要性が議論され、「とりあえず、やってみる」ということで下北沢リンク・パークプロジェクトが生まれた。
- 活動を開始するにあたり、部会メンバーのひとりが所属していた一番街商店街に相談をして、商店街が管理する道路事業予定地（拠点スペース）にて活動をスタートさせることができた。



### (3) まちづくり活動の理念、目標、コンセプト

公共空間の使い方を考える場：下北沢駅周辺では工事の進捗に伴い、何にも使われない道路事業予定地が増えている状況にある（p1 右上図）。これを生活者や来街者にとっての有効な公共空間に転換していく実験の場となることを目指す。

まちづくりの実験の場：「まずは試しにやってみよう」をモットーに試行錯誤を繰り返し、変化していく街に合わせて道路事業予定地を仮の利用の仕方で行っていくことで、将来の駅前広場等の整備や活用にフィードバックすることを目的としている。

下北沢を表す色違いの空色：空色の箱は、演劇の舞台で使用したものや不要になったイスなどを提供いただきワークショップで塗装した(1p 写真)。それぞれ少しずつ色が違うのは、塗る人が各自で調色しているからであり、下北沢が多様な街であることを表現している。

### (4) まちづくり活動の内容、特色、今後の展開など

#### <拠点スペースにおける活動>

- ・下北沢駅周辺では休憩できる広場スペースがないことが課題として挙げられており、また広場空間の利用ニーズを把握することを目的として、通常の活動としては拠点スペースを無料で利用できる休憩所として開放することを行っている。(年間40～75日程度。1p 写真)
- ・休憩所の他には、様々な活動団体と連携しながらイベントやまちづくり活動を行っている。
- ・下北沢らしい活用のあり方を探るため厳格なルールは存在しないが、地域への貢献や誰もが参加できること、イベント開催中も休憩所として利用可能なエリアを残しておくこと、商業活動は行わないなど、活用を通じて見えてきた一定の考え方のもと運営している。子どもを対象としたものや多様な参加者が期待できるものを積極的に進めている。(右写真)

#### <拠点スペース以外の場所への活動の展開>

- ・拠点スペース以外の場所でも休憩スペースや他団体と連携した遊び場等を一時的に実現することで、活動のアピールや様々な活用の可能性を探る活動を行っている。(3p 写真)
- ・特に現在工事が進められている下北沢駅前広場では、隣接する店舗にイスの管理を協力してもらうなど、できるだけ日常に近い形での休憩スペースを実現することを心がけた。

#### <今後の活動の展開>

- ・まちづくりの仲間を増やすため、拠点スペースや駅前広場等の公共空間だけでなく街なかの店舗等の軒先に青いイスを置かせてもらう「(仮称)シモキタ・ソライスプロジェクト」を企画している。既存アプリも活用しながら活動を連鎖的に展開し、下北沢の街を学びながら、街の利用者がまちづくりに参加する第1歩となることをねらっている。(3p 図)



ストリート・プレイ (2019/10)



ゴーゴーリーダーズ (2023/3)



小径のノエル (2020/12)



下北沢音楽祭 (2022/7)



東大駒場祭 PR イベント (2022/10)



シモキタリングいどはた会議 (2022/8)



阿波踊りワークショップ (2023/6)



ダンサンブル (2023/6)

### (5) まちづくり活動の主体、組織、連携体制など

- 活動主体としては、シモキタリングの駅広部会（主に周辺居住者や商店街関係者等により構成）が主体となってプロジェクトを運営している。（p1 図参照）
- 活動方針や拠点スペースにおけるイベントの可否は、下北沢一番街商店街と随時調整しながら進めている。なお、拠点スペースの活用に関しては道路占用許可は不要であるが、駅前広場の活用については道路占用許可を取り活動を行っている。
- シモキタリングの各部会とは、部会の世話人会を通じて情報共有を行っている。

### (6) まちづくり活動の費用、財源、収益など

- 主な活動場所は公共用地であるため、積極的にイベント等で利用料金を徴収することはしてこなかったが、持続的な活動としていくため利用規約を作成し活動に対する寄付等で財源を確保する方向で調整している。
- 現在の活動費用は、世田谷まちづくりファンドによる活動助成を主な財源としており、その他は人工芝の管理費や会費などで賄われている。

### (7) まちづくり活動の成果、地域への貢献など

- コロナ禍の影響は大きかったものの活動をスタートさせて4年が経過し、休憩所としては安定して利用者が見られる。また、地域イベントや行事の会場の1つとして利用されたり、これまで繋がりのなかった地域団体から利用問い合わせがあるなど、確実に地域での認知度が向上している。



下北沢駅前広場 (2019/12)



下北沢駅前広場 (2022/4)



東北沢駅前広場 (2020/1)



北沢 PR 戦略会議 @ 下北沢駅前 (2019/11)

### (仮称) シモキタ・ソライス プロジェクトの概要

